

(三) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

I

小松の帝の御母、このおとどの御母、はらからにおはします。さて、児より小松の帝をば親しく見たてまつらせたまうけるに、ことにふれ[＊]遺[＊]迹[＊]におはします。「あはれ君かな」と見たてまつらせたまひけるが、良房のおとどの大饗[＊]にや、昔は親王たち、かならず大饗につかされたまふことにて、わたらせたまへるに、鶏[＊]の足はかならず大饗に盛るものにてはべるを、いかがしけむ、尊者[＊]の御前[＊]にとり落し[＊] X けり。陪膳[＊]の、皇子の御前のをとりて、まどひて尊者の御前に据うるを、いかがししけむ、御前[＊]の大殿油[＊]を、やをらかい消[＊]たせたまふ。このおとどは、その折は下臈[＊]にて、座の末にて見たてまつらせたまふに、¹「いみじうもせさせたまふかな」と、いよいよ見めでたてまつらせたまひて、陽成院[＊]おりさせたまふべき陣[＊]定[＊]にさぶらはせたまふ。融[＊]のおとど、左大臣にてやむことなくて、位につかされたまはむ御心[＊]ふかくて、²「いかがは。近き皇胤をたづねば、融[＊]らもはべるは」と言[＊]ひ出でたまへるを、このおとどこそ、「皇胤なれど、姓たまはりて、ただ人にて仕へて、位につきたる Y やある」と申し出でたまへれ。さもあることなれど、このおとどの定めによりて、小松の帝は位につかされたまへるなり。帝の御末もはるかに伝はり、おとどの末もともに伝はりつつ後見申したまふ。さるべく契りおかせたまへる御仲にやとぞおぼえはべる。

II

この帝、いまだ位につかされたまはざりける時、十一月二十余日のほどに、賀茂[＊]の御社[＊]の辺に、鷹[＊]つかひ、遊びありきけるに、賀茂[＊]の明神[＊]託宣[＊]したまひけるやう、「この辺にはべる翁どもなり。春は祭多くはべり。冬のいみじくつれづれなるに、祭たまはらむ」と申したまへば、その時に賀茂の明神の仰せらるるとおぼえさせたまひて、「おのれは力およびさぶらはず。おほやけに申させたまふべきことこそさぶらふなれ」と申させたまへば、⁴「力およばせたまひぬべきなればこそ申せ。いたく軽々なるふるまひなさせたまひそ。さ申すやうありとて。近[＊]くなりはべり」とて、⁵かい消つやうにうせたまひぬ。

いかなることにかと心得ず思し召すほどに、かく位につがせたまへりければ、臨時の祭せさせたまへるぞかし。賀茂の明神の託宣して、「祭せさせたまへ」と申させたまふ日、酉の日にてはべりければ、やがて霜月のはての酉の日、臨時の祭ははべるぞかし。

(中略)

この帝の、ただ人になりたまふほどなどおぼつかなし。よくも覚えはべらず。御母、洞院の后と申す。この帝の、源氏にならせたまふこと、よく知らぬにや、「王侍従」とこそ申しけれ。陽成院の御時、殿上人にて、神社行幸には舞人などせさせたまひたり。位につがせたまひて後、陽成院を通りて行幸ありけるに、「当代は家人にはあらずや」⁶とぞ仰せられける。さばかりの家人持たせたまへる帝も、ありがたきことぞかし。

I

*小松の帝……光孝天皇。

*このおとど……藤原基経。

*還迹……人を驚かせるほど立派だ。

*良房のおとど……藤原良房。

*尊者……大饗に招かれた客の中で、最も身分の高い者。主賓。

*大殿油……御殿でともす明かり。油を用いる。

*下臈……身分の低いこと。

*陽成院……陽成天皇。

*融のおとど……源融。

II

*この帝……宇多天皇。

*賀茂の御社……上賀茂神社および下鴨神社のこと。

*鷹つかひ……鷹狩り。

問1 傍線A～Dの主語として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- | | | | | |
|---|---------|---------|---------|---------|
| ① | A……光孝天皇 | B……陪膳 | C……藤原基経 | D……藤原基経 |
| ② | A……光孝天皇 | B……光孝天皇 | C……藤原基経 | D……源融 |
| ③ | A……藤原基経 | B……尊者 | C……藤原基経 | D……光孝天皇 |
| ④ | A……光孝天皇 | B……光孝天皇 | C……源融 | D……藤原基経 |
| ⑤ | A……藤原基経 | B……陪膳 | C……源融 | D……光孝天皇 |

問2 空欄 X に入れるべき助動詞を次に示すものの中から一つ選び、適切な活用形にして記せ。

【つべしるしむきり】

問3 傍線1「いみじうもせさせたまふかな」とあるが、なぜそのように感じたのか。その感情を説明するものとして最も適切な

ものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 陽成天皇が退位する大饗であるにもかかわらず失態を犯した配膳役に対する憤怒。
- ② 配膳役が取り乱したことに對して、尊者がともしびを消して許しを与えたことに對する感慨。
- ③ 親王が自らの前に雉がなかったことを恥じ、他人に氣づかれないようにともしびを消したことに對する共感。
- ④ 藤原基経はまだ身分が低かったため、親王を援助したいのにできなかったことに對する慚愧。
- ⑤ 配膳役の失態を他人に氣づかせないように、親王が自らの前にあるともしびを消したことに對する感嘆。

問4 傍線2「御心」を説明するものとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 次の天皇は誰かという焦燥
- ② 源融の發言を防ごうとする忠心
- ③ 自らの出世を阻むものを探る疑念
- ④ 自らが天皇の位に即こうとする野心
- ⑤ 次の天皇は自分が決定するという慢心

問5

空欄

Y

に入れるべき語として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

① まつりごと

② まね

③ しわざ

④ つみ

⑤ ためし

問6

傍線3「おほやけ」を説明するものとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

① 天皇

② 世間

③ 裁判所

④ 神社

⑤ 大臣

問7 傍線4「力およばせたまひぬべきなればこそ申せ」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① あなたの力だからできることと申し上げなさい
- ② あなたであればおできになることだから申し上げている
- ③ あなたとわたしの力であれば乗り越えられることだからこそ申し上げている
- ④ あなた一人の力ではできないことだからお申し上げになりなさい
- ⑤ あなたでは力をおよぼすことがおできにならないからこそ申し上げている

問8 傍線5「近くなりはべり」とあるが、何が「近く」なるのか。その解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 酉の日がやってくること
- ② 還俗すること
- ③ 出家すること
- ④ 冬に祭が開催されること
- ⑤ 天皇に即位すること

問9 傍線6「当代は家人にはあらずや」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① この天皇は最早わたしの家来ではないのか
- ② いまは家来として仕えてくれないのか
- ③ いまの天皇はわたしの家来ではないか
- ④ いまはわたしが天皇の家来ではないか
- ⑤ いまは天皇が家来であつたことも夢のようではないか

問10 右のⅠおよびⅡの内容に合致するものとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 尊者の膳に雉の足がなかったため、配膳を担当していた親王は御前の雉の足をとって、尊者の膳に据えた。
- ② 光孝天皇はつねづね基経の聡明さを尊敬しており、自らが即位してからは自分の右腕に引き立てた。
- ③ 光孝天皇と基経は母親を同じくする兄弟であつたため、基経はこどものころから光孝天皇と親しかった。
- ④ 宇多天皇は即位する前、陽成院の命をうけて賀茂の御社で舞を奉納した。
- ⑤ 宇多天皇は源姓を賜つて臣下となつていたにもかかわらず天皇として即位した。

問11 右のⅠおよびⅡは、大宅世継と夏山繁樹を主な語り手としている。この文章の作品名として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 大鏡
- ② 古今著聞集
- ③ 栄花物語
- ④ 十訓抄
- ⑤ うつほ物語